

銚子市ゼロカーボンビジョン（改定版）（案）に対するパブリックコメントの実施結果

◆意見の募集期間：令和7年1月10日（金）～令和7年1月24日（金）

◆提出があった意見数：4名（6件）

番号	提出いただいた意見（原文）	市の考え方
1	<p>0カーボンの前提としている要件のうちの大きなウエイトである太陽光ないし風力発電について耐用年数もしくは稼働可能年数は17年から20年(50年もつという説もあるが)と想定され2050年までの間で2回ぐらいは設備の更新が必要と思われる。設備の廃棄更新にかかる費用及びCO2はどのように試算されているのか。</p>	<p>温室効果ガスの排出量については、環境省が取りまとめた「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル」に従って推計していますが、その中では「地理的な行政区域の排出量」が対象となっており、（行政区域内での）燃料の燃焼、電気・熱の使用及び一般廃棄物の燃焼によるものが対象となっています。設備の廃棄更新にかかるCO2（いわゆるライフサイクル全体のCO2）については、市域の排出量の対象となっていないため、推計していません。また、費用についても試算していません。</p>
2	<p>「新技術（次世代型太陽光、水素など）の活用」、「新技術（カーボンニュートラル燃料、CO2吸収・固定化技術など）の活用」、「新技術（低炭素・カーボンフリー燃料など）の活用」および「大学や高校と連携した人材育成」の記載はあるが、近未来発展型の銚子市となっていくためには、より積極的に「地域の産官学連携によるカーボンニュートラル新技術の創出」等、とっぴずれタウン銚子市がゼロカーボンビジョンで日本を先導する積極的な表現を盛り込んで頂きたい。</p>	<p>「第6章 取組の推進」「（3）各取組方針の内容」の「5）オール銚子で未来につなぐ」の「2050年に向けた継続的な取組例」に「地域の産官学連携によるカーボンニュートラルに資する新技術の研究・開発・実用化の推進」を追加します。</p>

番号	提出いただいた意見（原文）	市の考え方
3	<p>【P29】 「CO2排出量全体の4分の3を化石燃料の燃焼由来が占めており、その内訳を見ると産業部門が7割、運輸部門が2割を占めています」とあるのに対策が電力由来CO2の削減ばかりとなっている。産業部門と運輸部門の化石燃料の燃焼を減らす対策が不十分だと思う。</p>	<p>化石燃料の燃焼分について、さらなる対策が必要と考えています。産業部門の対策は、市だけで打ち出すことができない部門であるため、市内事業者と連携し、対策を講じていきます。また、運輸部門についても、市内事業者と連携し、電気自動車等へのシフトの流れなども踏まえながら、対策を講じていきます。</p>
4	<p>【P55】「表6-7 CO2吸収量」 2020年における銚子市のCM2吸収量は4.0千tと算出されているのに 【P39】「表5-1 脱炭素シナリオにおけるCO2排出量と目標値」の2020年の吸収量が「-」なのは何故でしょうか？2030年、2050年が「-4」と増えていないのは、今後緑を増やす努力はしないという事でしょうか？太古の昔からあるCO2を消費して酸素を生み出すシステム「光合成」を増やすために緑化に努めることが最善の策ではないでしょうか。</p>	<p>現在、市内に存在する森林及び都市公園を今後継続的に整備していくことで吸収量が年間4.0千tCO2となります（2020年は整備前としており、形式上「-」としています）。現時点において、市内で森林区域を増加させる計画は立てていないため、2030年と2050年の目標は同様としています。 なお、森林以外では、銚子の特徴を活かして、ブルーカーボン（p58コラム参照）の活用によるCO2吸収を検討しています。</p>
5	<p>【P49】や【P50】 「低未利用地への太陽光発電」とあるが、低未利用地にはソーラーパネルを設備するのではなく、緑化を進めたり緑地を公園化することにより銚子市の景観魅力を向上させるべき。 空き地のソーラー発電に景観的な魅力は無いし、メガソーラーは環境破壊以外の何物でもない。</p>	<p>「低未利用地への太陽光発電」への意見として、今後の検討の参考にさせていただきます。</p>

番号	提出いただいた意見（原文）	市の考え方
6	<p>世界の温室効果ガスの21～37%は、食料システム（食料生産・加工・流通・消費）に関するからの排出であると言われていたが、今回のビジョンでは、食料システムに関する内容が少ないように思われました。大人も子ども、気候変動や環境への意識を高めるために、具体的な方策として、例えば学校給食での地産地消の推進（食料システムの脱炭素化（生産・流通・加工の過程における脱炭素化））、学校給食における食品ロスについての取り組み（廃棄の削減への取り組み（牛乳の選択制など））、教育ファームなど農業・漁業体験の推進（耕作放棄地における市民農園化など）（日常的に自然とかかわることによって環境への意識を高める）、環境に配慮した農業・漁業の在り方について（みどりの食料システム戦略など）の検討などに関する内容もいれていただけたらとよいのではないかと思います。自給率200%を超える豊かな自然環境に恵まれた銚子市の特色を生かすゼロカーボンビジョンとして、ぜひ食料システムに関する内容もご検討いただけましたらありがたいです。</p> <p>また銚子市の農業における過剰施肥や家畜の糞尿の廃棄等などの問題は、温室効果ガスだけではなく、地下水汚染（硝酸態窒素など）の問題にも深くかかわっていると思いますので、銚子市の豊かな自然環境や水環境を守っていくためにも、農業の課題についての検討もしていただきたいと思います。例えば、土壌の検査をして過剰施肥にならないようにしていく農家を支援していく仕組みづくりや、家畜の糞尿を堆肥にしたり、建材や紙、バイオガス、バイオ素材にしたりする取り組みや、牛に海藻飼料を与えることで、ゲップ（メタンガス）を減らす取り組みなど、さまざまなについても検討していただけたら大変ありがたいです。</p>	<p>No.1の回答同様、食料システム全体にかかるCO2（いわゆるライフサイクル全体のCO2）については、市域の排出量の対象となっていないため、現時点では考慮しておりません。頂いたご意見については、今後の検討の参考にさせていただきます。</p> <p>なお、学校給食については、米はすべて銚子産を使用し、野菜は採れる時期にもよりますが、可能な限り銚子産のものを使用しています。また、水産業が盛んなまちとして、近年、自宅で魚を食べる機会が減ったことから、令和5年1月より「銚子さかなの日」を設け、年に数回、銚子で捕れた魚を使用した特別メニューを提供しています。</p>